論語太閤記

五編

二

へ伊13
1833
50

へ13 特
1833
50

繪本太閤記五篇卷之二

目録

摩耳惠多丈の篝に勝紋活
信孝卿丈馬をなて勝家へ殺ひとをふ図
勝家和睦雪とあくゝ怒る図
羽柴柴田張陣渉山嶽活
佐久間玄蕃臣長濱街道を放火と告図
肖年明茅堀体を即刻市山と佐久間と戦図
秀吉卿小牛候刃図
秀吉卿渉ケ山嶽の要害を敷多の砦を築図

務田忠三郎 説山落話
務田忠三郎 雑兵の俸ゝそゝ路が柴ゝ来る図
山路右馬之忠之話
本村隼人 村庄治郎を殺ゝ図
ゝ路右馬が妻ゝ親族を捕らゝ図
佐久間玄蕃 攻大岩山砦話
佐久間玄蕃 攻方山の林蘭池西可吉門が
後乗と斬て血おりとるゝ図

摩恵多ゝ多勇 勝敗

敵人の日両雄おゝびと信長ゝの功臣柴田羽柴の両人まゝ抜群と奉ひ
勝家ゝ以為渠い新参の猿面冠者我い小田家累代の功臣何ぞ能
吾ゝ及ゝんやと秀吉ゝ押りゝく勝家い匹夫の勇我ゝと足らず
小児のおゝ豈ゝ吾ゝ敗ゝ得んやと因茲忽明岩乃親ゝと捨
年楯の中ゝ多ゝ多ゝ実ゝ小田家滅ゝの後ゝ悪ゝ者ゝ多
うゝ北ゝ北ゝ侍従信孝い去年岐阜の城ゝ旗を翻ゝ三法師君
ゝ羽柴秀吉ゝ欲財のゝゝ小柴田瀧川ゝ加勢ゝ来ゝ
ゝ和睦を乞ひ小田雪消勝家ゝ上洛と称て瀧川ゝ三方
ゝ美討秀吉ゝ滅んゝ密ゝ其外謀ゝせらんゝ小丹下旬ゝ

信濃郷
早馬左
勝頼へ
報ひとをづ
図

羽柴秀長・同秀次及び諸計多稲葉小林が嘗て秀吉の右の下知に
随ひ岐阜の城を遠巻に本陣の兵い物及び多数の龍川一益と攻
るは必ず信長大軍を率て集めて評議し和泉岩城
亮小田新八郎信兼故七兵衛尉信澄が弟と、
一益にくい秀吉が大軍を防くるを叶ふるに先づ馬を以て柴田
勝家に急を告げ後詰の勢を得て計を定めて合戦をべきより
外に後をべき術もなれなきは上により信長卒にて後を石に
命ぜ和泉小谷柴田勝家に告らるく勝家是と聞て甚驚き猩冠着
めず吾孫を推薦先づて信長を奏討我し戦ん時後の患とろ
ら上めんと計ることを安うく孫三郎信澄の逆を討て出陣を
討べしとく其用意いそぎ[illegible]れど時正月の下旬なれば雪後の雪

人馬の途を塞ぎ奏よるべきかうもみざれば胸騒動しく降る猛
し雪を白眼怒りと睨さく日を臣ぬ二月の初めまい遠き湯乃気
雪中に孤立海辺川辺の雪寒さて及ばれば勝家忍つち三百余人
の人夫を命じ街乃の雪を切開せるら出陣用意を為るうき是
を依て近国の武士と俟し二月の末三月のそりに出陣とい
ちえくで下臣る実を城郭府中の城を奪惠多政左衛門尉
家は信長に在世の時より勝家の幕下にあって朝倉及び上杉征伐の
一切に山度も勝家より岐阜後詰の援兵を蒙り今兼の有恩で
返義せ[illegible]云年勝家秀吉が和睦の仲より両家の心孫と計り初
[illegible]は丸乃丸いづれ[illegible]勝利のんと事と両端を斗附の義動と
何ひ[illegible]小今度勝家が[illegible]と度出勢せどんばけんべうざる勢

上杉謙信
柴田勝家
猛将
て奴原
図

るしば藝孫に郎年永脇心の良後を集め孫を誘せ玉ふ
孫に郎年永に附いまゞ若年ゝこゝへども聰明なるの父を勝つ事
を附て変ぜるきは賞るれば進ゝ出て中るい今度柴田羽柴乃合
戦其勝級い附運ゝよろこゝへども勝きと篤ゝ柴田い勇力の五元孫
略ゝ拙く秀吉い計策を好んで人和と得ゝ故ゝ勝猶い羽柴に勝て
級俗い柴田ゝあ[illegible]されば度の合戦ゝを換利有乙当和ゝ[illegible]ゝ私
ゝ[illegible]ゝ又い庇と称し出陣ゝ後ゝ勝家ゝ後陣ゝ續き後ひ両家の
元合に新り後ゝ[illegible]ゝ不肖ゝ[illegible]ゝ柴一番ゝ柴田ゝ憎俱に義
ゝ抽でく先陣とをうけ勝家ゝ疑ひを免ゝ且い南小両家の利害と
柴ゝ又撥ゝ孫ゝ変ゝ義羽柴に眼ゝと結ゞ柴田ゝ悪ゝとう
けば運と両端ゝ又ゝく孫のゝ已きに陸ひゝゝゝ[illegible]家乱を

ゞて去ゝよろこび年永と大ゐに軍年ゝ余人お副小の兵へで
故せゝ

羽柴柴田張陣志澤ヶ嶽

天正十一年三月七日小田の藩慎柴田俄羅進勝家彼阜の城と又
絶羽柴藤吉守秀吉と雄雄と耐ゝ攻せんと大軍暁ゝ押出め先
陣い摩恵ゝ孫郎年永にゝ余人次い佐久間ゝ右藩門政次日源
い郎政秋にゝ余人銀茅勝山の城ゝ佐久間三左藩門勝政六ゝ余人
東郷の城ゝ安井左近和清二ゝ余人城三氏次二ゝ余人承表次
郎元治二ゝ余人加賀御幸塚の城ゝ徳山又兵藩衛一ゝ余人先ゝ乃
越本れて知尺尾山の城ゝ佐久間玄番政盛政其勇居日田大聖
寺の城ゝ拝郷又左藩門衛久盛二万又ゝ余人先ゝの拠物三万六ゝ人

佐久間玄蕃既に長濱
柳ケ瀬を焼払ひたる図

天正十一年三月九日佐久間盛政
摩恵多の手勢二千にて
秀吉卿の軍勢の足溜
となるべき神社佛閣民屋を
悉く焼はらふ其中に
本寺の堂舎をと
又ハ足利の将軍
代々の祈願所にて
本堂経蔵阿弥陀堂
三重の宝塔鐘楼堂
方丈客殿及び塔頭の
坊舎に至るまで
ならべ建つる霊
場なりしが灰燼となり
空しく飛鳥

されば此寺をたのみ寺中の僧徒
本尊を懐にして枝頭村の遊運る
ところ方へ移りまつりしが
掃当寺ハ往昔の相公と勅使と
して長浜山常信寺と号を賜
ひしより以来数百年乃星霜を
経りし霊場なるが此度ハ一時の
烟と立のぼりし本尊を遷座
し奉るべき時なく之づ
初禅のき沙汰なり秀吉公御座
の時伏見乃城なる三重の御殿を
当国へ下し賜ひ一寺となして当寺乃
堂舎となし二寺ハ所生滅の無きを
勅書を賜ひ又当寺へ祈祷の料とし
て三十石を年々に三度下し賜り右御代将
の遺し佛なりし後来れ公の御代々も
再び造営ありし故ひ又十石を寄附ありし

後陣に城中富山の城を伐て陣奥守必政一万三千余人城外大手城を
金蔵太郎八長近に千余人柴田権六郎勝久三千余人後陣の横大ね
柴田勝家に毛長勝助家臣日々九左衛門横系松系柴田兵衛教る中村
与左衛門手次第の勇士近江国馬廻り三千余人其勢合て惣軍九十八万
七千余人いの左の城より勝家に後陣柴田弥右衛門勝次見張る若狭
結城を城代として其勢三千余人先と守らせよ分暁より立りしに紀
伊の大和摩郷表年永勇を進め掃出せば系後の軍勢雑賀衆紀
州打立る明る八日先陣に羽柴秀吉の宿と先陣とし後陣の勢に柳ケ
瀬に陣を立る九日先陣本乃幸に兵を二手に分て摩郷多
年永と戦と羽柴後に佐久間玄蕃
既を[illegible]し長濱の石橋小谷に水田と焼拂ふ軍勢と余吾の湖市

山に陣を立て居る左程の羽柴秀吉の国勢柳ケ瀬
に出張の上に陣の分と
羽柴長浜守秀長日孫七郎秀次両人紙屋川野谷出羽守敷隆
を[illegible]し木綿を十三限に先一番に信孝次に九千余人
柴田修理守秀中に三千余人[illegible]て次に茶臼山二番に赤松
次郎則宗勝猛小二郎政勝又二千七百余人三番に木村隼人正
綱茂羽柴勝右衛門尉忠政尾藤次郎右衛三千余人に番に[illegible]弥平永政
せる甚次郎遠守長多助長濱好る明石に郎則遠三千余人に番に
木下勘解由左衛門尉山内伯耆右衛門一千余田甚右衛門村治平次[illegible]一万
に出張余人六番に山右近長房長百余人七番に[illegible]郎秀政
石橋摩秀久二千六百余人八番に赤松弥三郎則安信義掃部義之

信濃勢
仁科右馬助
乃市ヒ
佐久間と
戦ふ図

神子田半左衛門等の九百余人九番目河内八郎忠仲・深山修理亮慶
長三百余人十番中河勝平清秀・又百人十一番羽柴孫七郎秀次
・川尻肥後守秀光二百人十二番羽柴兵庫守秀長・同次九二万余
る余人十三番に越前の秀吉卿小村馬助・加藤光泰・石川兵
部友真・平野長泰・片桐且元・加藤孫一・吉明・福島市松正則
・蒲坂彦内・安治糟谷助右衛門・武部四郎右馬・脇坂淡路・石田佐吉・三成大
谷刑部吉隆等と首し面々羅を荘り旗本の勢一万又る
余人後陣に板原七郎左衛門・荒木兵庫・三・余人兵・狼小姓・
可る其外諸国の集り勢郡合七万八千余人三月十日柳瀬を
進発す其勢と二分にして一番より六番と西の山麓に添て押出
し七番より十二番と東の山に添て推寄る西の方の先手

敵い三丁外先進て東野村に屯し敵又近い天狗山に陣を取
河内勢佐久間が陣所より市山の林に押よせ一日に周を尽とそ上
うろう佐久間が陣に向て周を合せ敵と対峙す上のより見て敵の対
二百人外に〜い出さんぐるよ対うろうふ蜜政兼て巧し郷あれば歓
を敢日気付を〜んと考の奥乳を奪ひ敵を好まず腰乗百余人
を出し金敢せ矢軍より対を送りうろうを天狗山の林に抜へる
東方の先手坂体左衛門秀政門勢に暫つて周を攻う鉄炮を打うは
戦ひを挑むよ佐久間方ようもう鉄炮を出して先と敵へ打合と
秀政下知て大よ鉄炮を攻り電光のごとく突くうるよ佐久間勢
親と引し指の板を唯羽の矢ケ崎に撃り内て弓鉄炮と雨のごく
こ打出しうるめくして其日も申の刻及びくれ両軍勢を引上後く

の図

を固めらり羽柴筑前守秀吉おいきえ場をしいらんの依久間が約
勢にて心得様不定敵方より源氏陣を構へ居り着かくんと呼る未だ
[illegible]中に兵隊ゑるのまゝ密と福島市松呂二人を召し呼寄の陣より
出立ひ雑兵を給ひ敵の陣所より近き山の峯より拳上り佐久間が陣
不及びとゞく小田の屯くをうく巡見みくく急ぎ本陣より給ひ
金勝寺に使守秀長其外左右に付近より向ひ宣ふきのふ盛政
が軍の澤勢ゑ雑くをし所ゑ敵陣をよく〳〵伺ひ見し勝家も老功
の着るれば味方を宮て永くと弱付要き我うゝと此所ゑ
在陣してみん間ゑ信長瀧川ゑ内ゑ我通ゞ渠ゑとして英濃伊
勢と表に出て出表へ押向ひ三方より指掖こ包こ討んと計ひ
夫い相ゑにそよるべゑ勝家ゑ[illegible]て此秀吉と謀討ん

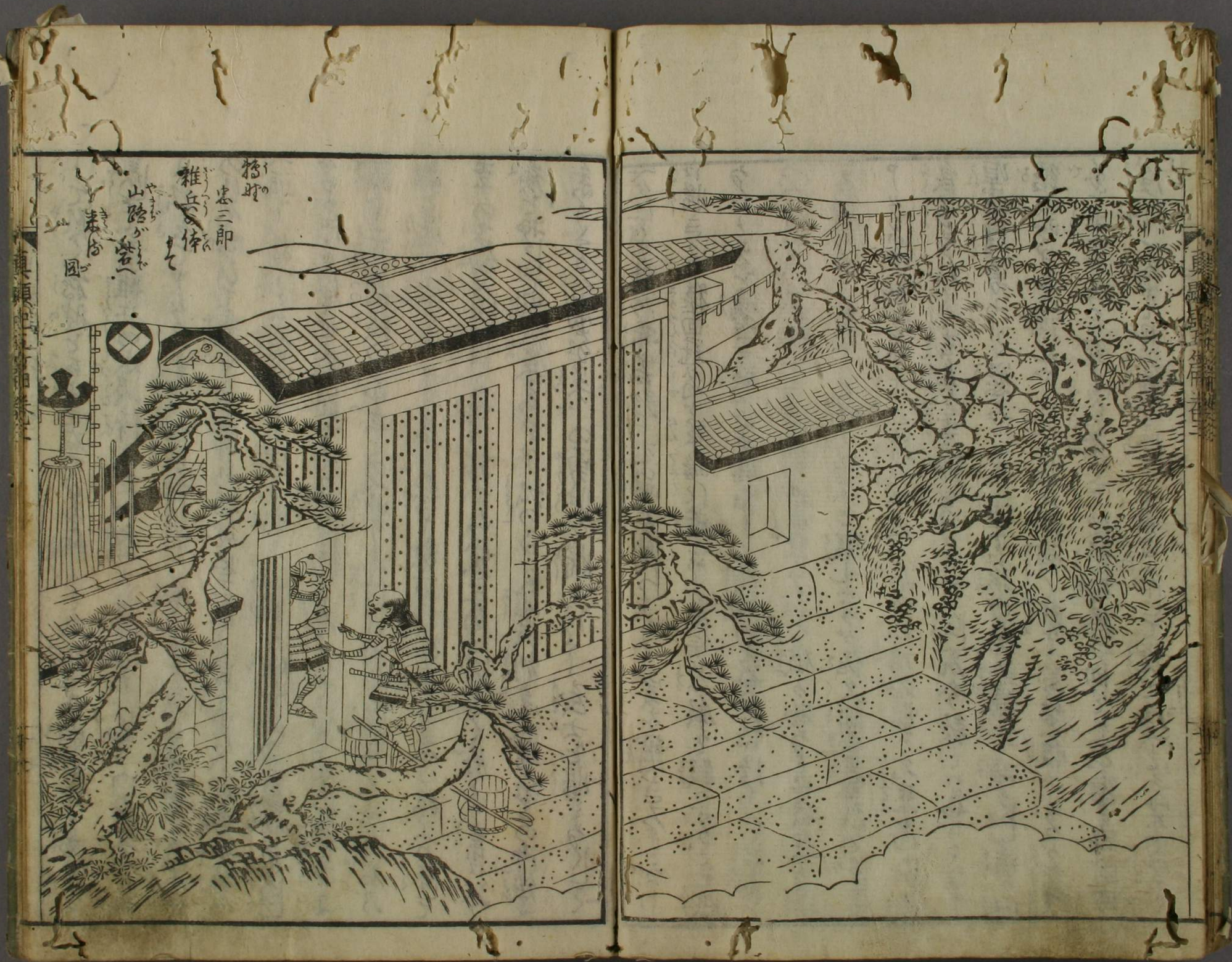
とい密史と以て月の光と推んとをるぶおし看く吉斗略をゑて勝家
玄審を討ゞ[illegible]て其日より率く令と下知る人の人まをゑ志ば
嶽不本と始し不く詰りくゑ要害の岩成他せ其法い割番
詰して盛政を分ゞ下知ゑ給へば日あゝ以て諸方の岩成統せり佐
久間盛政ゑとゑんくゑ日く城前ゑ逃勝家ゑゆくゑ秀吉賤嶽
本中ゑ二ゑ所ゑ附城を構へ其外本山前蒲谷以下の詰りくゑう
要害と拵へ番詰出陣ゑ秀吉ゑ引ゑべき様ゑ相見ゑ出陣して
秀吉ゑ討ゑ給へ附城悉く出来揃ひ上ハ秀吉ゑ討滅ゑ
陣方の軍兵上方へ押通るゑ叶ひゞ行対ゑよく御出馬ゞ若
うゑる勝家ゑと宮て実ゑ[illegible]三月十八日三万余誘出軍士
を引率城前を立く立月に日に同中尾ゑ[illegible]日拂暁

秀吉卿
嶽の
要害
数多乃
砦を
築く図
田上山羽柴
秀吉七十騎
東野山城
秀政ヶ砦
大徳
ヶ砦
出羽砦
木村
ヶ砦
大岩山
中川砦
岩崎山
ヶ山砦
大沢村
勝ヶ嶽羽田
柴山ヶ砦
大音村

統和寺秀の居賜嶽の尾傍より攀ぢ登り味方要害の砦くさ乃後ふ
開き家二ヶ所みとて又敵の人まとを命じ給ふ大岩山と岩傍山乃両
所に要害の砦なくていけよとぞうしび洗ぎ力と尽し今日中に築くべし
金出まぬ〜てうんよい夜〜恐畏と命じ給ふ人まぐも寄り助力
を出し多いく夜を合〜営む程に石垣低く塀の塞落ぬしども和三の日
已の魁よい両所の砦今く加藤番右衛門かく〜中上ぬれば秀吉大り
喜び給ひ岩座の引出抱敵〜下編りぬ叔又敵と味方の分際とゑんだや
〜〜永室のとなる篠尾砦にとり給ひく佐久間ぶ陣取り柴田ぶ屯
及び尚も味方の要害とくと伺ひ給ひ今ハ日弱り十分ぶ調ひ
〜〜〜〜ぬ方を攻め砦くと守らせ給ふ秀吉本山の尾傍の要害に
門ぶ〜て見と固めさせ田神山の要害に羽柴筑守秀長無大

和とて見を本陣と定め菖蒲谷の城に城体左衛門秀政大岩山に
新に築きさる砦に中川瑞竜平信秀岩傍山に見も新城を築
ゑ右近長房を守らせ給ふ秀吉本山の尾傍の要害に治和泉守
右ぶの方に大隠岐八兵衛両人を岩傍に柴田修理亮守旗下の勇士なるべし
附保守勝孝を病乳次郎に源吾に見も新城を築
涙の城に泡ゑ保孝を加へけ所に見名の武士を配置さる其一隊
との砦に勝次郎小六郎政勝其尤ぶの尾傍にする本村隼人と籠城
ゑ治和泉ぶ要害本山ぶ赤野ゑと柵を振せ其間に小川出佐守と
入乗し其外信州兵部少輔勇ぶ勇ぶ勘兵衛山内猪右衛門ぶ弱甚ぶ赤松
弥三郎細河ぶ八郎名乗く地理に陣を構へ前後左右に相
通じ敵さ来ぶ防んと拵軍ぶ成ぶ東に板倉郎左衛門長秀

[illegible]ば[illegible]の[illegible]を[illegible]の[illegible]に[illegible]の[illegible]を[illegible]の[illegible]を[illegible]の[illegible]を


物見
忠三郎
雑兵
山路が砦へ
忠吉
図

て軍く物語と云よせ右の事を細くと語ふ物語て易く今
素を後雑兵の水汲体よ立出密よと語が器にもり門を守る者
よ私云てやうの素に物語殿門閥の者なるぞ急よ告げヤ度人の
のいれ申びて後中よ素りい物語忠三郎ぞ言素に入度有る臨度
へ通じ後へと云番兵と申く彩と物語臨時思意
なるぞ何申せよ射面せぐりけ申はと今て門を用せ言中よ
後ぐ呼よ別後の素言とのべ暫く流語ふ時を聴ぬ語左右乃
者と退け同くヤ今呼下後中欲方の言中よ素り後ふい保て
幸の事細のべ詳よ語り後へと忠三郎ふ時をく居よ素呼今
後と押して面言素事申私の事北刻を人勝家云の御使よ
素りとと勝家呼下の勇壮を備へ〻〻武士を眼〻〻く

歌の物すしめんてを志なり若四時を忘れて味方よ敵素に
者なりぞ塩乃ぞ〻恩恵のべとの御申りて素とん
てけ申をヤ言せ後よ呼我と実度と少に変ふ〻ふ者を知せ
後ふ度呼下の心底いぞ〻ぶ〻ヤと云ふ語はぞ〻呼と申て者
勝家の事云ふ雑言ふ仏ふ素元来柴田度の家臣なるぞ
面時使者よ対素ふ況る度止申る〻柴田度の御歌とお
呼と素ぞ私よ歌射ヤ〻ていこれ〻ふ物る家今羽柴度素を二
心なき者と思申二方の固めをり命せ〻て〻ふ〻今申度忠仕ん
と羽柴度（射）名義云ぞ〻ふ物柴田度の御申る
又申度跡時ふ者度申ふと申度忠三郎を申ヤ中ふい呼下の者ね
ふ呼度跡時ふ者度申ふと申度忠三郎を申ヤ中ふい呼下の者ね
ふ呼度跡時ふ者度申ふと申度忠三郎を申ヤ中ふい呼下の者ね

武辰の勇剛を押へ、二城のうち五人と云ひ給へいよく哭の智謀
と知れ給ふが故之羽柴辰い脆くのうち人何て哭の乃勇略と知り給ん
を哭は、し武りの委しき哭やにかだう用るき哭が守らせひる
何のそや系ゞ見る所山所にい思女を哭て守らんも欲のいらへ給こと
所にあ以哭を哭て柴田辰の哭や所に哭の系きと知り給へし
徒より女の已と哭とる者の為り給ひ士い已と知る者の為り哭を
といらびや哭や柴田(後条)の小物ひく伊賀守乃弟地九国十二万石
をたまはるべきは系の若いんで哭辰ゑさびりの為る孫とらへらんん
やらびと哭は系くとつゝ哭ゑ哭ゑ哭ゑ

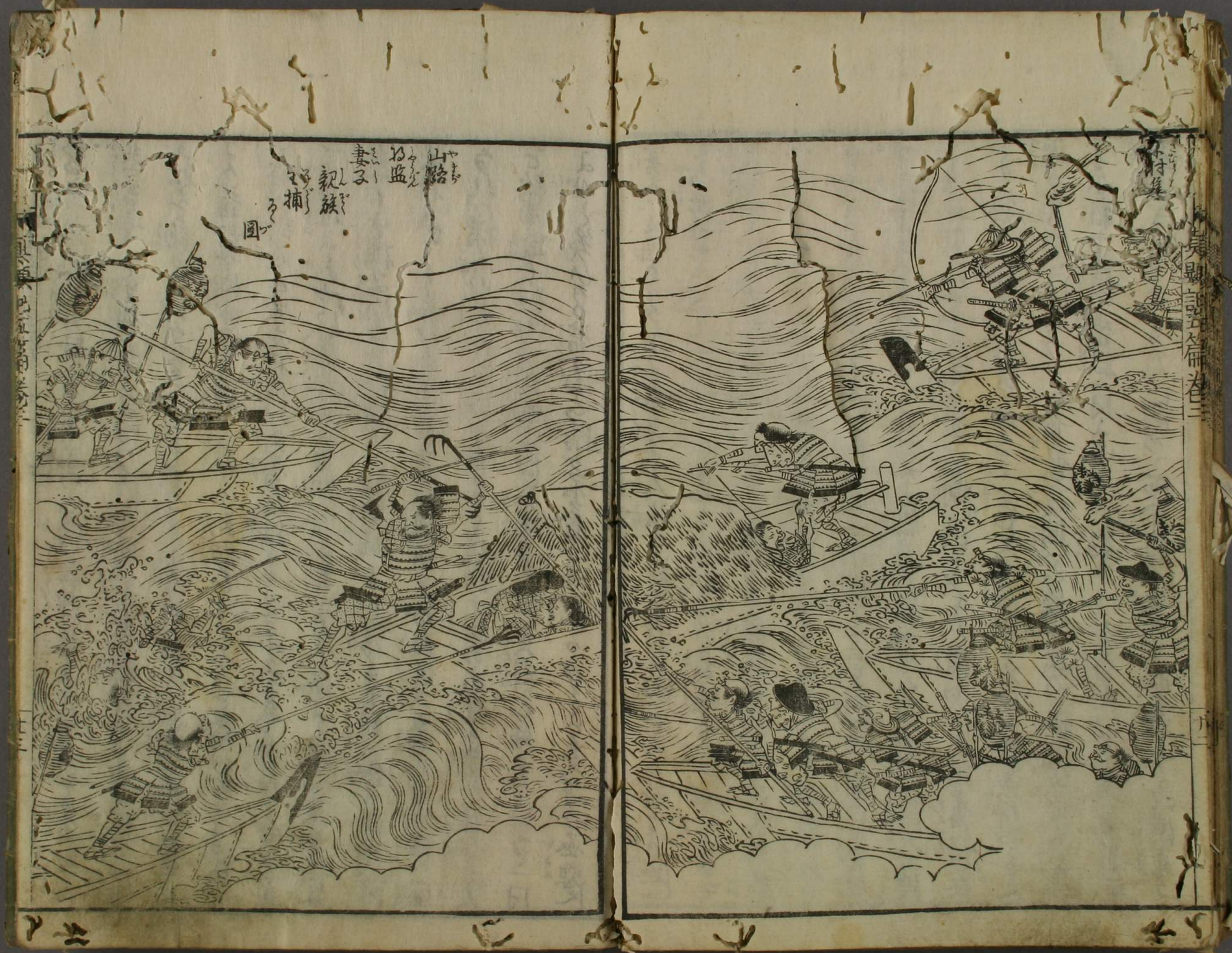
家とそ勝ろうゞ柴田及弟武勇と申し惟条と勢ひ強く御なく
と雖にいるし侍家の内なる者つと和りしき次第と推しそもあし大
坂の首一つ云て柴田及ひ去年なせば天晴勇しうゞとて惟源
とろひ思ひ近く柴田新しく本村集人を数き討ゞとて神のゞ
ち力今年卒七郎村庄治郎両人や合め斬ゞと定めの五十二月の
夜本村ゞ賞や者ろいろ今長濱より宿一雅と来つゝひ明朝
御茶進と中度ひ来寄治りひて大脱ろゞとゆ名しゞ本村保升
は意ひて知ゞ参ゞきは「今藤」ろふと治仕と思ひ脱び
又今年郎村を招きよせ組討ゞとゝまゞ藤を構へろゞあ
中ろ次第なりを夜ろ魁ろゞ本村ゞ陣門を叩く者あり
本村ゞ良ろ大徳寺右衛門と云者夜ゞ出て推

問ふ郎村庄治郎そひ本村及ひ本村の後や入度夜中推条藤
急き門を開ろひ入と云ゞ暗く御結ひと急ぎ本村ゞ新と告
ろひゞ郎村なゝゞ苦ひろまゞ門を開けとそ扨て内ゞ入て対面
ひ郎村庄治郎い柴田伊賀守ゞ近士ひゞ為りみて脱ゞ斬ら
ろひひ空ひ」を本村集人新吉秀ろの御使ひて長濱ゞ来り
合せけるを者の毒ゞ為ひ者と云ゞ強ゞ為ると云め徒ゞ怒りを
解く四ろゞ勢仕せり郎村庄ゞ本村ゞ為ゞ為ゞ感ひ
郎悪と敵ゞ為やとゞろひ居ろる本升も治ゞ盗欲方へ入悪
を為ひ本村を討ん藤を郎村ゞ使ゞ抜ろゞ実ゞ本村ゞ悪意報
ゞ為ゞ為と為法報ゞ為ひ」と郎村為ゞを密ゞ治ゞ密升を
妻ゞ為法ゞ明朝の茶会ゞ出席ゞ者ろふゞ本村な

真景累ヶ淵　巻之二
十二

村綱
て大ものを紛し つ是を後方へ〻今朝未明軍兵を仙
こそ囲こと落を討く捜し連を囲こと落ゐ陣
本村を討り給ふ方後を立度ろふく今年腰村と中合
べき密法ゐて急ゐ両人を呼ゐ腰村一人い
所へ落不ゐ此ゐ今い何地へ行ゐ是又ひとりゐ落そい渠ゐ
出接ることに構ゐ仕ゐて歌の摘と如ゐ長濱ゐ逃亡
う老母妻子と急ぎ松ゐ落せと物の心落文字とさ
此ゐ落出て良後を引き疲に給て柴田ゐ陣へ逃行こう
係ゐ不ゐ腰村左治郎ゐいひ〻く本村ゐ家に来りてやるゐ山路
係ゐの所ゐる代ゐ知りゐるゐ陣不ゐの外強勢ゐ引ひ
で行ゐ陣を討り出て田変ゐと行ゐ落ゐ山畠ゐ要

宮ゐて元囲こゐふゐ落ゐく人強ゐ腰本村ゐ腰て大ゐ起りゐ延
て落ゐを討り出こゐて安ゐ〻ゐ急ぎ長濱ゐ妻ゐ子を
生捕やゐて川表次郎ゐ本陣内ゐ下綾馬の武者六七強長
陣ゐ出ゐる云ゐ老母妻子ゐ落ゐ老母妻ゐ子ゐ捕ゐ元殺ゐ松ゐ
元ゐ帰ゐ系ゐ方へ志落ゐ小湖ゐ上ゐ数十被ゐ番松
堅固ゐ守ゐ所ゐ云ゐ捕ゐ者ゐ法ゐ強
ゐ武ゐ法文ゐ厳敵ゐと制ひて〻ゐ濃出ゐ維番松ゐ兵
熟ゐ屋ゐ寄ゐ家ゐ〻ゐ西ゐ明け〻ゐ火ゐ松ゐ
塩ゐ〻ゐ腰ゐ〻ゐ番松ゐ渡綱ゐ落ゐ松ゐ橋ゐ強ゐ打ゐ
ゐ新ゐ腰ゐ番松ゐ一ゐ人ゐ勢ゐ〻ゐ番兵ゐ目ゐ
そ〻ゐ本村ゐ追ゐ松ゐ後ゐ濃寄


山路
ね監
妻子
親族
も捕
囚

を拒ぎ防ぎ戦ふ者の数方々に及ぶ忠のと落ね賀ぶ妻子たちまちに番船乃
兵士多く退き去て生捕る者多くなりぬるにて番船数十艘に立ちまくれる処に落
ぶ船を動かすべく文左衛門と呼ばれ船頭と出ちる
する番兵を湖水の中へ斬て落し〳〵配ひでと大ゐと腐げて立る而と
本村が討ると弁花内弓に矢番ひ射ちるふ文左衛門が胸板をとをる
て去逆ふ中に落ぶ入り番船どもと乃〳〵絶よと落が老母妻子
悲く生捕ると平に渡れば捕ぶと清えて紙子獅の陣へ引ぶ
本村よりく告げ遣ぶ本村大きに怒び〳〵ふ敵逆乃者乃母や妻子
うしが諸人乃見ぶ〳〵よせやと〳〵月十六日と落ぶ老母妻子七人
と敵陣近く引出し逆磔ふ処に五忠を乃世天罰と落ぶ乃よと一日
よ出し奴ひろ結ぶと路ぶ不義より死るゆ〳〵いとゆぶ〳〵亟懲と

ゆぶ〳〵たり

佐久間玄蕃政攻大岩山砦

小国先生の大ね佐久間玄蕃政と賀ね賀を近く拓き敵
陣の要害軍中の虚実を窺ふ賀ぶ中ゆる小国表の要害
を乗の吉心を籠て構へひ長蛇のごとく砦を築き西和後左右
相助けて攻へ〳〵ぶ猛へひ猛へひ攻へ〳〵ぶ味方多く
級小比し賀ぶ賀ぶ者のい志津ぶ獅の尾末海と二ケ所の要害大山砦
山岩佐と乃砦へ良くの城へと隔へ敵へひ遠きを取へ構へ渉る
ゆぶ〳〵乾へ〳〵ぶ先と攻へ御逆ひ〳〵ゆれば密政大きに怒び
り先敵乃ひ矢を撃ぶ〳〵そと落を使ひ勝ぶ者源と来り右
の次第を起り系一ゆの勢を引率し大岩と中河勢平ぶ砦を

佐久間玄蕃之丞
を
うれる図

義経ゟ為の要害とくじきゝ勢ひ近く寄こゝろゝ小勝部
良勝く思案せしが海大岩山を攻るゝも戦ひの勝敗を掛ゝ
一番せんならば逆ゟ海陸とゞし時ぐ潮とゝるゝ長政秦細と合
議今霄い味方沖の浦ゟ見せうけ明夜押よせ敵の不意を打
ゞとて其用意をゝ〳〵ゝるゝ先諸方の岩ゞもゝ押への勢と西
べゝとくゝゝ勢と宮むるゝ摩耆ゝ孫ゞ郎多永い一法円ゝ嶽ゝ邪
孔ゝ後ゝゝ大勢ゝて生陣ゞ〳〵ゝて柴田佐久間ゝ脇を元雑兵
引ゝゝるれば合戦ゝい浅ゝゝるゝ先軍〳〵ゝ多ゝ〳〵ゝる斗
ゝゝるれば本村勝須賀大蓮寺の畑へとして柴田三左衛門勝政小原
新八郎安平孫右衛門等三ゝゝ百人軍ゝゝの尾ゝゝ向ひ陣とゞ
桑ゝ羽田ゝ押ゝい不意ゝ治郎安平左近三ゝ余人志摩嶽の西の方ゝ

彼ゞゝ大将佐久間盛政い金剛佐久間三左衛門尉源六郎原政
三徳山ゝ兵衛弾郷ゝ左衛門等其勢一万騎天正十一年三月十九日
夜ゞの内より押出さんと其ゝ配り既ゝ合戦時ゝ玄蕃頭盛政軍士
等ゝ中河ゞ岩吸ゝゝ藤ゝれば塚の去いまゞ乾ざるゝ先を
攻ゝゝい塚潮の猶利ゝゝれば十文字論猶ゝゝれば利ゝ
長柄の勢ゝ諸ゝ配ゝゝ諸軍十文字論猶大論
て陣長柄をゞ拾ゝゝ配ゝゝ魁限にゝ多ゝゝ多ゝ砂市山を折ゝ西ゝ峯と
彼ゝ人馬ゝ殺を街せ海作とゝ余吾の海をはゝ公方山
の藤ゝ打ゝれば既ゝ本雲の内ゝ敵ゝ柴山修理ゞ良
名迫西郷右衛門可古川孝右ゞ門ゝ馬の足を冷さんとゝ海の
内ゝ戻ゝ名ゝ盛政ゝ月軍神の無ゝゝあの下良ゝ

[illegible]

風俗人情例せは始る者ゝ[illegible]

[illegible]